

会 議 録

会議名	平成18年度第1回宇都宮市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成18年8月29日(火)午後2時00分から3時45分
開催場所	宇都宮市役所 14A会議室
出席者	【委員】 今井昭男, 杵淵広, 中島宏, 真壁英敏, 渡辺通子, 佐々木和也, 服部美佳子, 金枝右子, 佐々木英明, 寺内典子, 結城笑子, 入江操, 大谷和江, 島田義彦, 渡部修三, 椎名雅彦, 若月章男, 柏崎一三, 新津謙治 【事務局】 福田宇都宮市環境部長, 他24名
公開・非公開	公開
傍聴者数	なし
議題	1. 仮議長選出 2. 会長選出, 職務代理者指名 3. 議事 宇都宮市一般廃棄物処理基本計画について
会議結果	1. 佐々木英明委員を仮議長に選出 2. 互選により今井昭男委員を会長に選出 また, 佐々木英明委員を今井会長が職務代理者に指名 3. 計画(概要版)に基づき事務局から報告(質疑応答)

議事

宇都宮市一般廃棄物処理基本計画について
事務局から説明

発言要旨

一般廃棄物処理基本計画について

新津委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本市のごみ処理の現状について, うまくいっているのかどうかの評価が非常に大切である。2頁のグラフで人口が増えたらごみが増えるのは当然なので, 平成15年度をピークに減少していることを良いと評価していいのか。一人当たりのごみ量が評価の基準となるのではないか。 ・ ごみは資源と焼却に分別しても総量は変わらないので, 分別のメリットは資源化率が上がれば処理費用が少なくなるということであるが, そのようなことがわかるような評価がよいのではないか。 ・ 同程度の市と比べて, 本市民が素晴らしいのか, 悪いのか, 踏み込んで市民に伝えて欲しい。
------	---

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ごみの排出量は、平成 15 年度をピークに減ってきているが、排出原単位（一人 1 日当りのごみ量）は、政令市と中核市（49 市）の中で 36 位であり、まだまだ減量が足りない。基本計画では、平成 12 年度に比べ 20% 減らす目標であり、達成するためには、家庭系・事業系の種々な減量施策に取り組んでいかなければならない。また、3R（発生抑制、再利用、再生利用）を推進するとともに、資源物を分別し、燃えるごみを減らすことが必要である。2 頁のグラフで家庭ごみでは生ごみが 51.3% と多いが、焼却ごみに混じった紙が 15.4% もあり、これを分けると約 15,000 トンの減量になる。このようなもったない資源ごみ等を直接市民の方に分別していただくため、709 単位自治会を対象に 7 月末から来年 1 月末まで、説明会を行っている。
新津委員	<ul style="list-style-type: none"> 資源化すれば処理費用は激減するのではないか。それをもっと PR してはどうか。2 頁の下のグラフは重量を示したもののか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 重量である。全体の 4 分の 1 は紙類であり、6 分の 1 が資源化できる紙の割合を示したものである。
今井会長	<ul style="list-style-type: none"> 5 種 9 分別から 10 分別、13 分別と細分化するとごみ減量の実効性がどれだけ上がるか。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> 20% の減量目標を、平成 12 年度を基準にして定めた理由は何か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 国が平成 12 年度に比べて平成 22 年度には 20% の減量を計画に定めている。施設等を整備するにあたり、これをクリアしないと国からの交付金が厳しくなるため、宇都宮市もこの目標とした。
佐々木 （和） 委員	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトルなど、ごみの質が変わって平均比重が減り、体積は増えている。現在のライフスタイルでりんご 1 個分の重量を減量するのはとても大変なことだ。ライフスタイルと一緒に考えると、重量での計算はマッチしにくいのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 意見を踏まえたい。その他プラも資源化を考えている。重さでは 10% だが、容積は 40% で、リサイクル率にも影響している。以前はびん・缶がほとんどだったが、現在 6 割以上がペットボトルである。リサイクル率は重さなので、なかなか率があがらない。
結城委員	<ul style="list-style-type: none"> ごみの中身はプラスチック、発泡スチロールが多い。東京は早くから分別されているが、分別の細分化が必要ではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> その他プラはできるだけ早期に分別収集したい。白色トレイと牛乳パックも拠点回収からごみステーション回収に変更したい。その他プラを資源化するために、圧縮・梱包してリサイクル協会に持っていくための中間処理施設の基本構想を、年明けに審議していただきたい。

真壁委員	<ul style="list-style-type: none"> ・質問を4つ。7頁のマイバッグについて宇都宮の現状は。地区別ごみマップとはどのようなものか。生ごみ処理機は市民45万人、16万世帯の内どれくらい普及しているのか。平成27年度に公共下水道、合併処理浄化槽の普及100%とあるが、見通しが甘いのではないか。
事務局	<p>もったいない運動の中で、マイバッグを推進している。また、エコショップ認定店制度（スーパー、食料品店など）では、エコ活動をしている38店舗を認定している。その内、30店舗はマイバッグの持参者にポイントをつけ、小規模の生協2店舗ではレジ袋の有料化や、本庁地下1階生協のようにレジ袋を出さない店舗もある。残り5店舗にも働きかけをしている。さらにエコショップそのものも、今年度50店舗の認定店を目指している。</p> <p>地域によってごみの質が違うので、地域単位のごみ減量の意識向上を図るため、排出量と質を把握していく。組成分析が必要だが、予算が必要なため、実施は来年以降となる。</p> <p>コンポストは昭和61年度から11,143台、電動式生ごみ処理機は平成9年度から7,790台、合計約19,000台。しかし、生活様式の変更により、生ごみ処理機を導入したくても作った堆肥の使い道がないので導入できない家庭もある。このため、自分で使わなくても地域の農家等で使って頂けるような循環システムを構築していきたい。</p> <p>平成27年度の公共下水道整備率100%は、下水道をつなぐための配管施設の整備を指す。基本的な整備率としては100%だが、区画整理などのため一部は残るかもしれない。下水をつなげるかどうかも含めると生活排水の処理は100%にはならないだろう。本編ではその分のし尿や汚泥の処理を見込んでいる。合併処理浄化槽だが、既存住宅の未処理世帯3千数百件を年間400件のペースで付け替えており、このペースでいけば平成27年度までには付け替えて頂けるのではないか。</p>
真壁委員	<ul style="list-style-type: none"> ・7頁のごみマップで地域によって質が違うというが、そんなに変わるものなのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・中心部と郊外部でごみの中身が違うし、また、地域毎による分別協力度を見る上でも有効であると考えている。
真壁委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理機などは16万世帯の内の1割少々では少ない。もっと普及していかなければならないと思う。また、生ごみからの堆肥は塩分が多いので、堆肥にならないのではないか。別のお金をかけない方法はないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市では、実際に農家の朝市で堆肥と野菜の交換システムを作っているが、そういったものを参考にしながら進めていきたい。また、学校給食からできた堆肥は、農家に土壌改良剤と混ぜて使ってもらうような協力をお願いしている。家庭系生ごみの堆肥も使ってもらえるのではないかと考えている。

真壁委員	<ul style="list-style-type: none"> 最後に要望だが、エコショップ認定店で、店長クラスは知っていてもレジ係に声をかけてもらったことはなく、従業員はどんどんレジ袋をくれる。下まで徹底してもらい、市民に説明しないと普及できない。また、エコバッグを使って泥棒と間違われぬよう、対策をとって欲しい。
寺内委員	<ul style="list-style-type: none"> 地域婦人会連絡協議会で、福岡町にある「小倉セラミック」という会社の見学をした。ごみが本当に少なくなり、出すのは分別された紙と生ごみだけだ。植木鉢や階段の手すり、ベンチなどを農家の天屋を借りてプラスチックを溶かして作っている。女性が集結してやればごみは少なくなる。私たちはやろうと思っている。 宮祭りでは8月6日の朝、オリオン通りから二荒山まで清掃をした。カキ氷のカップがたくさん捨ててあるので、禁止してはどうか。一番多かったのは、たばこの吸い殻だった。体験を報告させていただいた。
結城委員	<ul style="list-style-type: none"> レジ袋をジャスコが出さなくなると聞いた。いろいろな、きれいで安いマイバッグがスーパーに置いてある。レジ袋の有料化も聞くが、みんなマイバッグを使って、段々レジ袋はなくなっていくのではないか。お店も経費も浮くし、ごみも少なくなるのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 4月1日施行の容リ法改正では、国はレジ袋有料化を見送った。レジ袋は1枚で相当の石油を使う。業界では、レジ袋の厚さを薄くするなど努力している。声かけ運動などでレジ袋を減らしているコンビニもある。ポイント制やオリジナル買物袋など、各店で努力しているようだ。
結城委員	<ul style="list-style-type: none"> 言い忘れたが、マイバッグはまるめて持って行って、カゴは色違いのものを利用していけば泥棒と疑われず、店も注意できる。店と買物をする人のコミュニケーションをよくすればよいのではないか。
渡辺委員	<ul style="list-style-type: none"> 有料化の問題で、色別に有料のごみ袋で出す自治体もあるが、その考えがあるか、その見込みはどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 自治体へのアンケートでは、ごみの有料化を60%が実施または実施を検討している。そのほとんどが指定袋でのごみ袋の有料化だ。本市は、分別協力の徹底をしていただき、さらにその他プラスチック等を分別したうえで、平成22年度までに20%減らすという目標の達成ができないという状況であれば、ごみ有料化を検討せざるを得ないと考えている。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> 7頁の家庭系ごみで、生ごみの水切りをして発生抑制とあるが、家庭系焼却ごみの組成のグラフで、生ごみの水分は含まれているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 組成分析のグラフでは乾燥させた後ではないので、水分が含まれている。生ごみの80%は水分なので、水切りをぜひともお願いしたい。

中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8 頁の中・長期の施策で生ごみの資源化施策について、資源化技術の動向踏まえ実施の検討としているが、現在、生ごみは水切り後、焼却か堆肥化だけだが、その他の新技術はあるのかどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭系の生ごみは、現在コンポストや生ごみ処理機をお願いをしている。事業系の生ごみは平出工業団地に民間の堆肥化施設が作られていて 9 月から本格稼働だが、1 万～1 万 5 千トン进行处理する。最終的に家庭系生ごみは分別が難しく、平成 22 年度以降に新技術の動向を見ながら検討していきたい。現在は、生ごみをバイオガス化し、燃料とする技術があるが、まだ実証段階と考えている。技術が確立するまで見て参りたい。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ バイオマスタウンの取り組みも検討中かと思うが、水切りや資源化、堆肥にしても、分別ができないと良い施設でも稼働できない。排出者のモラルが必要である。全庁的な施策として、家庭版 ISO や食育など、学校・家庭・地域と組んで取り組まないといけない。縦割りではなく、横の連携についてはどうお考えか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係課との連携はもったいない運動で ISO を環境政策課と、生ごみ堆肥化や食育では教育委員会と連携を行っている。食育フェアや食育推進計画のメンバーに入り、連携して行っている。
寺内委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平出工業団地の生ごみ処理施設について、家庭でも近いうちに生ごみを分別するのか？
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ レストラン、コンビニなど、事業系の生ごみだけで、一般家庭の生ごみではなく、家庭の生ごみの分別はまだ考えていない。
今井会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の都市でもごみ処理は困っているようだ。他都市の劇的な減量の実例があれば資料として例示して頂きたい。減量ができないなら、有料化は 5 年、10 年前からいられているが、事業系ごみは有料化されるが、家庭系ごみも有料化がいかどうかお知恵を拝借したい。まだまだご意見もあると思うが、次回もあるので、ご意見はこれでよろしいか。
全員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異議なし。
今井会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、事務局から何かあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の審議会の開催予定だが、本日も説明した「一般廃棄物処理基本計画」に基づき、現在「ごみ処理の基本構想」の策定を進めている。内容を取りまとめるにはまだ時間がかかることから、年明け後に審議会を開催したいと考えている。開催日程はあらかじめ皆様にご連絡するので、よろしくお願ひしたい。
今井会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以上を持って、「平成 1 8 年度第 1 回宇都宮市廃棄物減量等審議会」を終了する。